

紙おむつ・生理用品の持続可能な物流体制の構築へ

～パレット輸送、DFLの促進～

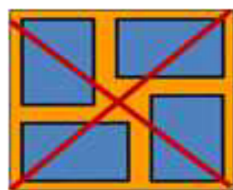
株式会社リブドゥコーポレーション（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 久住 孝雄）は、紙おむつ・生理用品の物流を将来にわたって維持するため、国土交通省・製造メーカー・卸売業者・運送事業者等の関係者間で、パレット輸送とDFL(Design For Logistics)の取り組みを促進するアクションプランに合意しましたのでお知らせします。

■背景

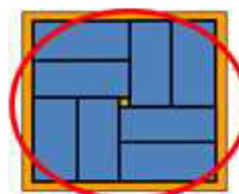
- 2024年に控えるトラックドライバーの罰則付き時間外労働規制（年960時間）の適用を見据え、ドライバーの長時間労働の改善・物流の生産性向上は喫緊の課題です。
- このため、官民連携した検討の場を2021年（令和3年）10月に設置し、手荷役からパレット化に向けた方策の検討を重ねてまいりました。

■アクションプラン概要

- おむつ・生理用品のパレットサイズはT11型（1,100mm×1,100mm）とし、荷量の多い商品については2023年度までのパレット輸送に取り組む。
- 商品の設計段階から、パレットへの積付効率を考慮した外装サイズの最適化（DFL:Design For Logistics）を促進する。
- 行政は取組みの旗振りや各種支援、表彰、周知PRを実施する。



既存の外装サイズでは
パレットへの積み付け効率が悪い



パレットへの積み付け効率を考慮したDFLを踏まえた
製品設計により、パレット積み付け効率を改善

■関係URL

- アクションプラン本文及び紙加工品（衛生用品分野）物流研究会
- https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000112.html

■リブドゥコーポレーションでの取り組み

工場倉庫の仕様がそれぞれ自動倉庫、パレット保管、一部手積み（手荷役）など異なっており、製品ケースも物流効率を考慮したサイズではありませんでした。そこで、製品仕様、製品折り寸法、入れ方の変更を実施し、まずは栃木芳賀工場発の大型車両での幹線輸送から T11 型のパレット化に着手しました。手積み（手荷役）を取りやめることで、ドライバー不足と言う物流業界の課題に対してある程度の効果も見込める結果となりました。

今後は一段積みによるパレット枚数の削減や高積みによる積載効率の向上を進め、車両台数を減らすことで CO₂ 排出量の抑制も目指していく予定です。

〈リブドゥコーポレーションについて〉

介護（Care）と治療（Cure）の両域において、一人ひとりの「生きるチカラを応援する」企業として事業を展開。介護（Care）の領域であるライフケア事業では、「リフレ」ブランドで大人用紙おむつを製造販売しており、施設・病院向けの業務用分野において介護のプロたちから選ばれています。治療（Cure）の領域、メディカル事業では、病院の手術室で使用される手術準備用キットの製造販売をしており、近年シェアを高めています。超高齢社会において、両事業ばかりでなく、それぞれの重なる領域や周辺領域にもビジネスドメインを拡大しようとする取り組みもスタートしています。

○代表者：代表取締役社長 久住 孝雄

○本社所在地：大阪府大阪市中央区瓦町1丁目6番10号 JPビル

○設立：1965年（昭和40年）4月1日

○事業内容：大人用紙おむつ、介護用品・用具、メディカルディスプレイ用品（キット製品、医療用不織布製品）の製造および販売

以上

-本件に関するお問い合わせ先-

株式会社リブドゥコーポレーション 経営企画室 広報課

Mail: kouhou@livedo.jp

06-6227-1360（平日 9:00~17:00）